

輝

開発車両のテスト一筋、信念を貫く

「現代の名工」自動車整備工 柘植誠治さん（西一色）



▶▶▶プロフィール

つげ・せいじ 昭和22年生まれの57歳。昭和41年、トヨタ自動車工業株式会社（現トヨタ自動車株式会社）に入社。新規開発車両の走行テストなどで性能評価業務を手掛け、車両総合評価技能の第一人者に。振動などのテストでは、計測器のみに頼らず、人間の五感を使って性能を追求する。現在、技術管理部所属。趣味はバスケットボールや読書。

現代の名工とは、厚生労働大臣が選ぶ「卓越した技能者」のこと。国内最高水準の技能を持つ他の模範となる人が選ばれ、毎年およそ150人が表彰されます。柘植誠治さんは昨年11月、自動車整備工として表彰されました。「開発一筋だったのでうれしいですが、自分ひとりではなくチーム全員の連名にしてほしいぐらいですよ」と今回の受賞について話す柘植さん。トヨタ自動車に入社して以来、多くの新車開発に携わりテスト車両の総合的な性能評価を行ってきました。その過程で磨いてきた良否を見抜く洞察力、運転技術、感性は超一流です。最初に手掛けた車はランドクルーザー。二テ

ィーゼルの黒煙がまだひどい時代で、服はすぐに真っ黒。開発チームの中で、一番人気がなかったですね」。しかし、あえてそのチームを選んだ柘植さん。学生時代バスケットボールをやっていたため、チームワークの大切さは身に染みていました。「とにかく職場の雰囲気があった。いい先輩に恵まれたと思います。今の自分があるのはそのおかげです」と振り返ります。柘植さんが初めて任された大仕事はトヨタ初のFF車「ターセル」の開発でした。「妥協は許されない、自分が納得できない車を売るわけにはいかないと、自分が購入する立場で考えました。その姿勢は今も変わっていません」。この車は自身でも購入。ヨーロッパでは最高品質（年間故障率が最も低い賞）の評価を得たそうです。北海道士別市では、一周10キロメートルにも及ぶテストコース建設と士別試験場の立ち上げを担当し、マイナス36度の極寒の中、車の限界性能をテストしたこともあります。「これは自分の幅を広げる貴重な経験になりました」とにっこり。また士別市に溶け込もうと、家族と一緒にママさんバレーにコーチとして参加し、あまり勝ったことのない「士別ママ」チームを3年間で全国大会に導いたこともあります。管理業務が増え、自身が第一線を退くことになっても「大丈夫。そういう組織を作ってきたし、後輩がいつばい育っているから」と話す柘植さん。「明・元・素、明るく元気で素直な気持ちをお大切にしていきたいですね」と、今新たな仕組み作りに取り組んでいます。

INTERVIEW WITH YOU

あなたにインタビュー

今年の目標は

みよしの文芸

俳句

初明かりいつものわが家でありにけり
酒井 登
一人にもなれ紅薄く初鏡
太田 芙美子
八十路には少し間があり初鏡
山田 年子
初みくじ中吉でよし受験の子
野々山 重夫

短歌

お互い言葉探して「あの」「その」
と笑まう会話の老の散策
鈴木 早苗
嬰兒のお目々あければのぞき込む
一人を増して年新たまる
鈴木 タカ子
「有難う」遺影の前の花筒に庭よ
りおりし花挿してみる
西山 邦子

狂俳

恵方詣
庚の寺社に幸祈る
鈴木 典章
笑顔
雅子妃に明るさ戻る
林 星童
折エテカ
江戸情緒出初の空に駈ける意気
塚本 湖村



おざわ ゆう 小澤 優さん

(黒笹)

教員採用を目指すサークルでボランティア活動などを行っているので、今年も地域の人と交流を深めていきたいです。また大学で自分のホームページを作っているのもっとコンピューターのことなどを勉強して、充実させていければいいですね。



しむらた みさき 城下 美咲さん

(三好丘小学校5年・三好丘)

まず大阪に引っ越した友達に会いに行くことです。運動では、鉄棒で逆上がりができるので、今年こそはできるようなること、ほかに学校の縄跳びクラブで二重跳びの発表があるので、それまでに練習してたくさん跳べるように頑張りたいと思います。



にした たかあき 西田 隆顕さん

(三好上)

助け合いチケットの体験交流会に今年度の第1回から参加しています。これからは今までの活動の方法が少し変わって、地域ごとに取りまとめ役を設けて活動していくようなので、自分がその役になって、この助け合いチケットを続けていければと思います。

次回2月1日号のテーマは

「成人式を迎えて」

広報情報課が皆さんのところへ突撃インタビューに伺いますので、ご協力ください。また郵便や電子メールによる「声」もお待ちしています。(1月11日(火)締め切り)